

3章 「工夫する」

毛ってふわふわ ～出合いの工夫～

園生活で、本物を使う体験に喜びを感じた子どもたちは、家庭や地域での生活でも多くの情報を得たり、様々な器具や素材に触れたりすることに興味をもち活動します。本事例では、動植物に触れ、飼育栽培をするだけでなく、「布になる物」に出合う場や環境の設定により、子どもたちは好奇心や探求心を揺り動かされ、興味の対象に様々な気付きや疑問をもち、「科学する心」が育まれる体験をしています。

幸田町立豊坂保育園

5歳児

体験1 羊との出合い（移動動物園が来園） 4月下旬

モルモット、亀、羊など、たくさんの動物との触れ合いを楽しむ。5歳児は、ポニーの乗馬体験をする。乗馬体験後、お礼を言う時にもポニーに触れ、「温かい」「毛が生えている」などと話す。Aさんが保育者のエプロンに付いた馬の毛を見つけて、「先生、毛が付いてるよ」と言い、「本当だ。何でかな？」とみんなで考えていると、動物園の方が「暑くなるから、夏の毛に抜け替わるんだよ」と話してくれた。「へー、毛が抜けるんだ」と言い、抜けた毛をつまんでみる。「色が違う」「チクチクするね」と言う。子どもと保育者が一緒に毛を集めていき、ボールのように丸めていく。

「羊さんは、毛がいっぱいある」「羊の毛は、抜けないのかな」「羊さんのは、ふわふわしてるよ」と、他の動物の羊の毛に、興味を示す。実際に触ってみることで、発見や疑問があり面白さを感じる。

体験2 羊毛との出合い（やってみよう！） 4月下旬

- ・ **触る**：保育室で、変わった匂いに気付いた子どもが毛を見付ける。「知らない臭いがする」「犬の臭い？」「くさい。うんちの臭い」と、気付いたことを言う。袋から出し、**見たり触ったりして、「モフモフみたい」「サクラの花の匂い」「いい匂い、温かい。クモの巣みたい。なんか糸が出てる？」「羊の匂い」「綿菓子みたい。温かくすれば、綿菓子になるんじゃない？」**などと言い、また違った発見を言葉にする。
- ・ **水で洗う**：2名が冷たい水で洗い、擦ったり、揉んだりして汚れを落とし始める。「ふわふわで、気持ちいい」「さっきより、臭いがしない」「変わってないよ。臭い」「ちょっと、犬の匂いになった」「なんか、ベタベタしてる」などと言う。
- ・ **お湯で、洗う**：泥水のように臭かったので、「温かい方が（汚れが）よく落ちるかも？」とAさんが話し、お湯で洗う。何度も洗ううちにきれいな水になり、臭くなくなった。羊毛洗剤を使うと白くなる。「伸びるよ」と、**温度で毛糸のほぐれ方に変化があることに気付く子どもがいる。「モチモチしている」「プニプニしている」と感触の心地よさや、乾いた時の毛との違いを言うなど、毛の特徴を実感している姿がある。**（洗濯屋さんごっこになる）

保育の工夫

恒例の移動動物園で動物と触れ合う機会を4月に設定する。

子どもの興味や言葉を受け止め、「毛」への興味が湧くような関わりをする。



興味を示した羊の毛に、実際に触ることで、面白い発見があるだろうと考え、毛を譲ってもらう。

譲り受けた羊の毛を、袋に入ったままの状態で、子どもの目につく場に置く。



気付いたことを、みんなで共有し、次はどうしたらいいか、一緒に考えるような言葉かけをする。

洗い方を子ども同士で共有するように援助する。



「ゴミを取り除き、ぬるま湯で3回ゆすぐ。ぬるま湯に毛糸用洗剤を入れ、浸してゆすぐ。洗っている時にフェルト化しない様に、羊毛をかき混ぜない。水で洗い、洗濯機で脱水をし、広げて陰干しする」等の活動を共有できるように、分かりやすく掲示をする。



「匂いは、よくなった。臭くないよ」「ふわふわ。気持ちいい」「糸みたいのが出るよ。クモの巣みたい」「頭に載せて、かつらだよ。温かい」「サンタさんみたい」などと特徴を感じ、イメージが広がる。

<フェルトボールを作る> Bさんが「私、お母さんとフェルトボール作ったことあるよ。なんかで巻いて、（手で）コロコロしたよ」と言う。話を聞いて、ネットやビニール袋に入れて、水で濡らした羊毛をコロコロと丸めていく。「なんか、うまくできないね」「泡が出た気がする」「泡？」「洗剤入れたら、泡出るよ」「やってみよう」と言う。洗剤を入れるならビニール袋にしよう、試してみる。「こんな感じだと思う」「色があつたら、もっとかわいいよね」と話題になり、色水で使ったクレープ紙、クッキー作りで使った食紅で着色する。作り方を工夫しようと、茹でる、時間を置く、凍らせるなど、いろいろなやり方を試す。フェルトボール作りの遊びが続く。

体験3 綿との出会い（近隣園との交流） 5月下旬

「きれいな羊毛を見せてあげよう！喜ぶかな、驚くかな」と期待して、羊毛を持って近隣のA保育園に行き、プレゼントする。A保育園から綿と綿の種をもらって帰る。もらった物を「綿」とは知らない子どもたちは、「羊毛の毛かな？」「え？白い所が羊さんとは、違う（綿は、真っ白）」「ちょっと、中が固いよ」「匂いがしないよ（羊は臭かった）」「蚕の匂いかな」「何か、種が入ってるみたい」など、羊毛と比べて気付いたことを話す。A保育園で綿と聞いていたCさんが、「これは、綿だよ」と言う。保育者から、綿の中にあるのは種で、自分たちで育てることができると聞いた子どもたちは、野菜の栽培の経験があったことから、自然に「綿を育てたい」という気持ちや声が出てくる。

近隣の交流園の友達に、羊毛のことを話したり、プレゼントしたりして体験を伝える機会を作る。



子どもが種に気付いたことを保育者は見逃さず、綿の中にあるのは種で、毛との一番の違いは、種を蒔き、自分たちで育てることができると伝える。

体験4 綿花との出会い（栽培活動） 5月下旬～

A保育園からもらったものは、綿の他に、綿の種や手紙があった。調べてみると、羊毛、綿のどちらも、服や布団などの同じような用途で使われる物だと知り、「似ている」「でも、違う」と話題になり、育てたいという思いが高まる。夏野菜の栽培計画をみんなで相談しているところだったので、綿を育てる相談はすぐに始まる。「でも、手紙には、種蒔きはコットンの日（5 / 10）って書いてある」「もう過ぎてている！」と気づき、その日の午睡後に種蒔きをする。「よく見えるから、2階にしたい」と、Dさんが言う言葉をみんなが受け止め、土を運ぶのは大変だが、2階で栽培を始める。

綿に触れ、綿の種に気づき、栽培する話し合いの場面で、注目し好奇心が増すように、A保育園からもらった「いろいろな綿の種」と手紙を紹介する。



水に浸けてからだ。



どんな芽が出るかな。



綿の花って、どうして色が違うのかな？



綿ふわふわだ！
おいしそう、アイスみたい。
白いね、茶色いもある。
A保育園と一緒にだ。

綿花を育てる：いつでも見に行ける保育室の近くで、種から栽培したことで、愛着を持って世話をした。手紙に書かれていたコットンの日より遅く種蒔きをしたことで心配したが、順調に生長した。先行して始めた夏野菜の栽培での気付きもあり、綿花を育てていく中での発見や疑問は、すぐに調べようとする姿になる。子どもたちの知識へと繋がっていくような姿があった。

栽培、綿、羊毛に関する絵本や図鑑が見やすい環境を設定する。

体験5 絹との出会い（蚕の飼育） 6月上旬～

絵本や図鑑で調べるうちに、「羊毛、綿、絹、麻」などの繊維の話を見付ける。例年、5歳児が育てている蚕を思い出した子どもが蚕の絵本を見て、「いつも蚕も、糸を出すよね」「蚕を、育ててみたい」と話し、みんな興味をもって蚕を育てる。卵から出た蚕を見て「糸みたい、小さい」と注目する。

毛→綿→繊維と繋がったこの機会に、いろいろなふわふわ探しをしてみようと話題にし、蚕を育てる環境を作る。

どれだけ食べるんだ。
急いであげなくちゃ。
パリパリって音がする。
うんこが大きくなった。



繭、卵みたい。



中はどうなっているのかな？蚕、煮るの？煮たらどうなるのかな？熱いから死んじゃう。かわいそう。全部死んじゃったら卵を産めない。などと、みんなで話し合い、絹糸を取る蚕と、卵を産むための蚕を決める。

その後、子どもたちは毛糸、綿、絹を使った遊びを展開している。

【考察】園の恒例の行事「移動動物園」、日常的に交流のある「近隣の園との関わり」、5歳児が毎年取り組んでいる「蚕の飼育」という行事や地域との交流活動で、子どもたちは大きく心を揺り動かす体験をした。そして、そこで出会った羊毛、綿花、繭への興味や探究を深めた子どもたちは、「毛糸にする」「栽培し綿を収穫する」「蚕を飼育し繭から絹を取る」活動に意欲的に取り組んでいる。「洗ったり遊びに使える物を作ったりする」遊びや、「種からの栽培や生長、飼育栽培の過程で気づき、疑問をもつ」体験を通して、身近な生活にもある毛糸、綿、絹の類似や違いを実感し、「科学する心」が育まれている。



糸がツルツルしてる。
触った手もツルツル。
白い糸きれい。
透明、光ってる。